

までいな家 エコハウスの数奇な活躍

歴史の散歩道

飯館村役場の西側に建つエコハウス「までいな家」をご存知でしょうか。現在はいいたて移住サポートセンター「3ど」として活用している建物です。

エコハウス（＝エコロジーハウス）とは、建材に身近な自然素材を取り入れ、気候や風土に合わせて自然エネルギー・再生可能エネルギーを活用する環境にやさしい建物のこと。「までいな家」は、公募で選ばれた全国20の自治体が環境省の補助金で建設したエコハウスの一つです。

「までいな家」は、までのいな暮らしと快適性・デザイン性を両立させているのが特徴です。母屋は「親の家」と「子の家」が渡り廊下でつながるいわゆる2世帯住宅で、広々とした庭や作業場も併設しています。平成22年に完成し、希望者が体験宿泊

やイベントでエコハウスの魅力に触れ、集会やサークル活動、結婚式の会場にも利用されていました。

しかし完成からわずか1年後、平成23年3月に東日本大震災が発災。「までいな家」は沿岸部からの避難者を受け入れ避難所となり、間もなくその後約6年にも及ぶ全村避難となりました。

19行政区の避難指示が解除された平成29年春、村は福島大学と「までいな家」協力協定を締結。学生らが「までいな家」を拠点に「村民食堂」を立ち上げ、村民の自分史制作などにも取り組まれました。そして令和4年から移住サポートセンターとして、建物の魅力を十分に発揮し交流の拠点として活用されています。



現在は移住サポートセンターが置かれ、さまざまな事業・イベントにも活用されています。(令和6年)



完成時の写真。「親の家」(中央)・「子の家」(右)と作業場(左)が、楽しいデザインで囲まれています。

村民の方からのリクエスト本



川端誠 作
BL出版

植木鉢に種を植えると...さて、どうなるのでしょうか。インパクトのある絵がとても印象的。ちょっと不気味でユーモアあふれる楽しいお話です。

うえきばちです

「ねずみくんのチョコッキ」などを始めとするねずみくんシリーズ。生きていく上で大切なことは「おもいやり」を持つこと。優しい気持ちでそつと芽生えるお話です。

村民の方からのリクエスト本



なかえよしを 作
上野紀子 絵
ポプラ社

ねずみくんのきもち

4月23日は、こども読書の日です。お子さん、お孫さんとの遊びの中に絵本を取り入れてみましょう。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。



おすすめ図書を紹介します

いいたて
なりわい
REPORT
vol.10

入居者の皆さんの穏やかで家庭的な「普通の暮らし」を大切に
特別養護老人ホーム「いいたてホーム」(社会福祉法人いいたて福祉会)



社会福祉法人「いいたて福祉会」は平成9年の設立以来、一貫して地域に根差した福祉サービスを提供しており、現在は、特別養護老人ホーム「いいたてホーム」と、居宅介護支援事業所「いいたて在宅介護支援センター」の2つの事業を運営しています。

特別養護老人ホーム「いいたてホーム」は、入居者の「普通の暮らし」と「穏やかな笑顔」を大切に、「一人ひとりに寄り添うサポートを、日々丁寧

一人ひとりの入居者に寄り添い、家族のような触れ合いを大切に介護にあたる職員の方々の皆さん。各ユニットの入り口は、住宅の玄関を模したデザインになっています。



に続けています。「いいたてホーム」は全室個室のユニット型を採用しているため、入居者は10人程度のグループに分かれて生活しています。また、ユニットごとに専属の職員が介護を担当することで、より細やかな介護やケアを実践しています。

そして、ユニットの中心には共有スペースがあり、ユニットごとの活動や、コミュニケーションの場として活用されています。食事は季節を盛り込んでいるので、二人ひとりに合わせて食べやすく提供され、誕生日には厨房スタッフ手作りの

ケーキでお祝いします。入居者に寄り添い個別ケアを行う方針や体制は、職員の皆さんのやりがいや働きやすさにもつながっています。

「いいたて福祉会」では、就職の条件に資格を含めず、就職希望者のやる気や想いを重視しています。現在働いている皆さんにおいても、働き始めてから資格を取得した方が活躍しています。「いいたて福祉会」全体で、幅広い年代の45人(3月1日現在)が働いています。引き続き入居希望者が多いことから、職員募集を継続しています。



入居者の笑顔が広がるアットホームなイベントを開催しています。

特別養護老人ホーム「いいたてホーム」
飯館村伊丹沢字伊丹沢571
☎0244-42-1700

